地震・津波発生直後の自助・共助が求められる段階から、被災者救助などの組織的な対応（公助）が展開されるまでの一連の流れを『体感』できる訓練を実施します。

津波警報伝達訓練

緊急地震速報、津波警報の連絡を受けて、住民及び各機関へ情報伝達を行います。

被災情報収集訓練

ヘリプターやパトロールカーにより、広域的に被災情報を収集します。

道路啓開訓練

道路の障害物除去や応急復旧を行い、緊急輸送路や交通路の確保を行います。

住民の避難訓練

沿岸の住民の方々が、避難場所や近くの高台に避難します。

被災者救助・搬送訓練

ヘリコプターや船舶で漂流者を、特殊車両や機材などで倒壊家屋等の被災者を救助します。

港湾啓開訓練

海上の油や浮遊物を海面清掃船、油防除船などにより除去します。

水門閉鎖訓練

津波警報を受けて、水門や閘門の閉鎖及び情報伝達を行います。

応急救護活動訓練

応急救護所を開設し、トリアージ及び応急救護を行います。

緊急物資輸送訓練

道路や港の啓開後、激甚被災地に向けて緊急物資を輸送します。

住民による初動対応訓練

公的機関到着まで、住民や消防団が近隣の消火や被災者救助を行います。

避難所設営・炊き出し訓練

避難所を設営して、地域住民などによる炊き出しを行います。

施設状況点検訓練
ライフライン復旧訓練
その他

体験コーナー・展示ブース

起震車による地震模擬体験、煙体験テントでの煙模擬体験、土石流模型実験の実演、災害備蓄用ボトルウォーターの配布、AED装置を使った心肺蘇生体験・応急処置の実技体験、訓練に参加した車輌や災害対策用機械の展示・体験（一部）、「緊急地震速報」や「地震・津波」など防災に関するパネル展示

豆知識

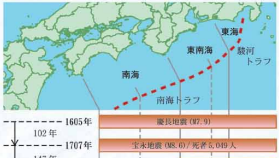
繰り返し発生している東南海・南海地震

～日本最大級 宝永地震から３００年～

１７０７年10月28日におきた日本最大級の宝永地震から今年で３００年。宝永地震は東海、東南海、南海の３つの地震が同時に発生し、津波の高さは１０ｍを越えるなど、大被害をもたらしました。

宝永地震以降も、約１００年周期で太平洋沿岸においてマグニチュード８クラスの地震が周期的に発生しており、今後３０年に７０～５０％の確率で東南海・南海地震が発生すると言われています。

関東から九州にかけての広域防災対策を早急に確立していく必要があるとともに、被害が想定される各地域での地震防災に対する意識の啓発が重要と考えられます。



お問い合わせ

【兵庫地区地震津波防災総合訓練】 国土交通省 近畿地方整備局
〒540-8586 大阪市中央区大手前１－５－４４ 大阪合同庁舎第１号館 / TEL：(代表) 06－6942－1141 企画部 防災課
ホームページ http://www.kkr.mlit.go.jp/

【淡路地域南海地震防災訓練】淡路地域南海地震防災訓練実行委員会
〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋２－４－５／TEL：0799－26－2017 兵庫県淡路県民局 防災課

R100 PRINTED WITH SOY INK